

科目名称	フランス語 I ①～③	授業コード	10306061
担当教員	小宮 美奈		
単位数	2.0 / 1.0	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2020
科目分類		開講学期	前期
外国語 / コミュニケーション			
関連資格			
履修制限等	予備登録実施		
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>授業の目的: フランス語は俗ラテン語から派生したロマンス諸語(他にイタリア語、スペイン語、ポルトガル語などがある)の一つで、世界中で日本の人口の2倍近くの人々の公用語として話されている。フランス語の学習を通して、世界を異なる視点より眺め、異文化への適応力を高め、地球市民としての教養を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>①フランス語の音声・文字に親しみ、正しい文法を習得する。          ②実践練習に積極的に取り組み、フランス語を話す楽しさを知る。          ③言葉を通してフランスおよびフランス語圏の文化や価値観を知る。          (実用フランス語技能検定5、4級程度)</p>		
授業の概要(内容)	<p>ストーリーを追いながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」という基本的なコミュニケーション能力が身につくよう指導する。授業では、教科書または配布プリントの筆記問題の答え合わせにより、わかりやすく文法を説明する(事前学習型授業)と同時に、発音訓練や聞き取り練習にも取り組み、テキスト内の対話を楽しく発表する(ロールプレイ)形式をとる。</p>		
授業計画	<p>1: 導入: 発音と綴り字、アルファベ: 第1課: 紹介(名前の尋ね方/答え方)          2: 第1課: 紹介(主語人称代名詞と動詞être、名詞・形容詞の変化)          3: 第1課: 紹介(国籍/職業、挨拶する①出会いの挨拶)          4: 第2課: 待ち合わせ(動詞avoir、不定冠詞と定冠詞)、小テスト          5: 第2課: 待ち合わせ(物・事の尋ね方、指示形容詞)          6: 第2課: 待ち合わせ(数詞①60まで、挨拶する②別れの挨拶)          7: 第3課: オデオン駅で(-er動詞の活用、動詞の型のまとめ)          8: 第3課: オデオン駅で(疑問詞を伴う疑問文)、小テスト          9: 第3課: オデオン駅で(家族、職業/学業について話す)          10: 第4課: カルチェ・ラタンで(動詞allerとvenir、存在の表現)          11: 第4課: カルチェ・ラタンで(前置詞à/deと定冠詞の結合形、方向/町)          12: 第4課: カルチェ・ラタンで(否定の冠詞de、きき返す/確認する)、小テスト          13: 第5課: ドバントン通り25番地(数詞②100まで/序数詞、住まいと家具、場所の前置詞)          14: 第5課: ドバントン通り25番地(礼を言う、謝る)          15: 総括(第1課から第5課まで)、まとめテスト</p>		
実務経験のある教員			
授業時間外学習	<p>テキストまたは配布プリントの予習(音声は3回以上聴き、発音してみる。筆記問題をノートに解く)          テキストまたは配布プリントの復習(ディアローグは何度も言う練習をする。文法事項の確認、筆記問題の確認、POUR COMMUNIQUER と動詞の活用などの基礎文法事項は暗記することが望ましい。)          詳細は適宜授業内で指示する。</p>		
評価方法	<p>対話の読み合わせや聞き取り練習の参加度10%、授業内小テスト30%、授業内まとめテスト60%の割合で評価。          小テストについては授業内で指示する。</p>		
課題・試験に対するフィードバックの方法			
使用テキスト	『ヌーヴォー・セラヴィ』倉方秀憲、Serge GIUNTA、Thierry TROUDE 著 早美出版社(CD付き)		
参考テキスト・URL	<p>文法書については授業内で適宜指示する。          教科書の音声ダウンロードについては、授業内で指示する。</p>		
各自準備物	<p>ノート、仏和辞典          詳細については授業内で適宜指示する。</p>		
実習費			
その他	<p>必ず出席すること。          欠席5回以上はE評価となる。          遅刻は30分以内とする。          Bon courage!</p>		

科目名称	フランス語 I ④⑤			授業コード	10406062
担当教員	南 コニー				
単位数	2.0 / 1.0	授業形態	講義	科目分類	外国語 / コミュニケーション
年次	2	開講年度	2020	開講学期	前期 / 後期
関連資格					
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	<p>欧州言語共通参照枠でA Iレベル (フランス語検定3級) に相当する基本的なフランス語日常会話を行う能力を身につける。</p> <p>1. 正確な発音を学ぶ! (音声学、言語のしくみを学ぶ)        実用的なコミュニケーションで不可欠なものの一つに正確な発音がある。        恥ずかしがらずに声に出して発音練習を丁寧に行うことで、より美しく正確なフランス語が話せるようになる。</p> <p>2. 自分について相手に伝える! (実践)        会話表現の例を参考に自己紹介や趣味について話すことができる。        間違いを恐れずたくさん積極的に話すことで、近い将来の目標や自分の興味についても話すことができるようになる。</p> <p>3. 相手の話した内容を聞きとる! (内容理解)        リスニング練習やペアワーク、グループワークを行うことで、相手の話を聞きとる能力を身につけ、内容を理解できるようにする。</p> <p>4. 会話の応用力を身につける! (技能)        会話において大事なものは、「答える力」と「質問力」。ディアローク (本文の会話) の後に、アクティヴィテ (実践会話) を練習することで、相手の言うことを理解する能力、会話をつなげる質問力を養う。</p> <p>5. フランス文化や社会を知る! (知識)        フランスの首都パリは芸術の都と言われ、パリ・コレなどファッション界の最先端をいく国でもある。すでに日本語になっている料理用語やファッション用語の多くはフランス語由来のものが多く、フランス語を学び専攻と関連付けて学ぶことにより、より多角的な学習ができる。</p>				
授業の概要 (内容)	<p>この授業はフランス語の基本的な日常会話・コミュニケーションを学ぶ授業であり、実用的なフランス語運用能力の習得を目的としている。この授業で使用するテキストは『カフェ・フランス』 (朝日出版社) という大学生を対象としたテキストで、コミュニケーション・アプローチに基づき、学習者一人ひとりが楽しく授業に参加できるよう設定されている。</p> <p>このクラスでは、自らコミュニケーションを練習する場として、クラスへの積極的な参加が求められる。</p> <p>フランス語は世界で最も美しい言語の一つであり、英語と共に世界の公用語として国連など数多くの国際機関で使用されている。近年、CEFR基準に基づき、世界の言語教育の場においては、&lt;母国語+2言語&gt;政策がグローバル・スタンダードとなりつつある。&lt;母国語 (日本語) +英語+フランス語&gt;を習得することにより、自らの教養を深め、世界情勢についての多角的な情報の入手が可能になり、国際人としてより世界に活躍の場を広げられるようになるだろう。</p>				
授業計画	<p>1 : Introduction : (オリエンテーション) 授業履修の注意事項、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。テキスト0課Introduction、綴りと発音の関係、アルファベ (pp.1-3)</p> <p>2 : Jem'appelleDenisテキスト1課 : DialogueとActivites I、II、III (自己紹介、国籍)</p> <p>3 : Jem'appelleDenisテキスト1課 : ActivitesIV、VとGrammaireetexercices (数字0-20、動詞etre)</p> <p>4 : Tuhabitesou?テキスト2課 : DialogueとActivites I、II (職業や住んでいるところ)</p> <p>5 : Tuhabitesou?テキスト2課 : ActivitesIII、IVとGrammaireetexercices (数字21-30、身分)</p> <p>6 : Unpanache,s'ilvousplaitテキスト3課 : DialogueとActivites I、II (国籍と否定形)</p> <p>7 : Unpanache,s'ilvousplaitテキスト3課 : ActivitesIII、IV、VとGrammaireetexercices (名詞の性と数、-er動詞)</p> <p>8 : 第6回~9回の確認テスト、フランス映画鑑賞</p> <p>9 : Tuasuneadressee-mail?テキスト4課 : DialogueとActivites I、II (身の回りのもの、否定)</p> <p>10 : Tuasuneadressee-mail?テキスト4課 : ActivitesIII、IV、VとGrammaireetexercices (動詞avoir、否定のde、疑問文)</p>				

	<p>11 : C'est qui? テキスト 5 課 : Dialogue と Activites I、II (人物描写、国名)</p> <p>12 : C'est qui? テキスト 5 課 : Activites III と Grammaire et exercices (所有形容詞、疑問詞、形容詞の性と数)</p> <p>13 : Qu'est-ce que c'est? テキスト 6 課 : Dialogue と Activites I、II 「これは何ですか?」</p> <p>14 : Qu'est-ce que c'est? テキスト 6 課 : Activites III と Grammaire et exercices (定冠詞、Qu'est-ce que...?前置詞)</p> <p>15 : 総復習、フランス映画鑑賞</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	<p>フランス語は綴りと発音の関係が決まっているので、そのパターンを覚える必要がある。それを踏まえた上で、学習した発音の練習を十分にすること。</p> <p>尚、収録された音声及び映像は以下のサイトにアクセスすることにより自由に利用できる。復習や自宅学習に活用すること。</p> <p><a href="http://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html">http://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html</a></p>
評価方法	<p>1. 全15回の授業のうち10回以上の授業に出席しなければ単位は認めない。</p> <p>2. 定期試験を行う (100点満点中50点分)。</p> <p>3. 定期試験と以下の小テストの総合点 (100点満点中50点分) で評価する。</p> <p>2課分の小テスト5点×3回 = 15点 アクティビティでのパフォーマンス5点×7回 = 35点</p> <p>また評価がSとAの人数の割合は、合格者 (つまり評価C以上) 全体の30%程度とする。</p>
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業中の小テストは点数をつけてその場で返却し、レポート等はコメント等添削を加えて返却。
使用テキスト	ニコラ・ガイヤール他著、ニコラ・ガイヤール他著、『カフェ・フランセ』、朝日出版社、2400円 + 税
参考文献・URL	適宜プリント配布
各自準備物	教科書、筆記用具、辞書
実習費	<p>1. 小テストの内容は授業中に指示する(単語テスト、作文、発音テスト等)</p> <p>2. 遅刻や欠席がないようにすること</p> <p>3. 授業中の私語、飲食、携帯の使用は禁止</p> <p>4. テキスト、辞書、筆記用具を持参すること</p>
その他	

科目名称	フランス語Ⅱ①④	授業コード	20406071
担当教員	南 コニー		
単位数	2.0 / 1.0	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2020
関連資格		科目分類	外国語/コミュニケーション
		開講学期	前期/後期
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照		
授業の目的と到達目標（学修成果）	<p>欧州言語共通参照枠でA Iレベル（フランス語検定3級）に相当する基本的なフランス語日常会話を行う能力を身につける。</p> <p>1. 正確な発音を学ぶ！（音声学、言語のしくみを学ぶ）          実用的なコミュニケーションで不可欠なものの一つに正確な発音がある。          恥ずかしがらずに声に出して発音練習を丁寧に行うことで、より美しく正確なフランス語が話せるようになる。</p> <p>2. 自分のことについて相手に伝える！（実践）          会話表現の例を参考に自己紹介や趣味について話すことができる。          間違いを恐れずたくさん積極的に話すことで、近い将来の目標や自分の興味についても話すことができるようになる。</p> <p>3. 相手の話した内容を聞きとる！（内容理解）          リスニング練習やペアワーク、グループワークを行うことで、相手の話を聞きとる能力を身につけ、内容を理解できるようにする。</p> <p>4. 会話の応用力を身につける！（技能）          会話において大事なものは、「答える力」と「質問力」。ディアローグ（本文の会話）の後に、アクティヴィテ（実践会話）を練習することで、相手の言うことを理解する能力、会話をつなげる質問力を養う。</p> <p>5. フランス文化や社会を知る！（知識）          フランスの首都パリは芸術の都と言われ、パリ・コレなどファッション界の最先端をいく国でもある。すでに日本語になっている料理用語やファッション用語の多くはフランス語由来のものが多く、フランス語を学び専攻と関連付けて学ぶことにより、より多角的な学習ができる。</p>		
授業の概要（内容）	<p>この授業はフランス語の基本的な日常会話・コミュニケーションを学ぶ授業であり、実用的なフランス語運用能力の習得を目的としている。この授業で使用するテキストは『カフェ・フランス』（朝日出版社）という大学生を対象としたテキストで、コミュニケーション・アプローチに基づき、学習者一人ひとりが楽しく授業に参加できるよう設定されている。</p> <p>このクラスでは、自らコミュニケーションを練習する場として、クラスへの積極的な参加が求められる。</p> <p>フランス語は世界で最も美しい言語の一つであり、英語と共に世界の公用語として国連など数多くの国際機関で使用されている。近年、CEFR基準に基づき、世界の言語教育の場においては、＜母国語+2言語＞政策がグローバル・スタンダードとなりつつある。＜母国語（日本語）+英語+フランス語＞を習得することにより、自らの教養を深め、世界情勢についての多角的な情報の入手が可能になり、国際人としてより世界に活躍の場を広げられるようになるだろう。</p>		
授業計画	<p>1：第7課J'adore?a定冠詞、好き嫌いの程度を言う</p> <p>2：第7課J'adore?a形容詞の性数一致、Ilya</p> <p>3：第8課J'aimebeaucoupvotretee-shirt!比較級</p> <p>4：第9課Jefaisdufootball!部分冠詞、中世代名詞en</p> <p>5：第9課Jefaisdufootball!siとnon動詞prendre,faire</p> <p>6：第7～9課の復習、フランス映画</p> <p>7：第10課Onyva!動詞aller,venir,mettre,vouloir</p> <p>8：第10課、11課非人称構文、代名動詞</p> <p>9：第11課、12課Tum'invites?目的語人称代名詞</p> <p>10：第12課疑問詞、pourquoi,quand</p> <p>11：第13課複合過去、半過去</p> <p>12：第13課、14課複合過去（2）</p> <p>13：第14課、15課Qu'est-cequetuasfaithier?主語代名詞on</p>		

	14：第15課Tuvasmemanquer!近接未来、近接過去 15：第15課、10～15課総復習
実務経験のある 教員	
授業時間外学習	フランス語は綴りと発音の関係が決まっているので、そのパターンを覚える必要がある。 それを踏まえた上で、学習した発音の練習を十分にすること。 尚、収録された音声及び映像は以下のサイトにアクセスすることにより自由に利用できるの で、復習や自宅学習に活用すること。 <a href="http://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html">http://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html</a>
評価方法	1.全15回の授業のうち10回以上の授業に出席しなければ単位は認めない。 2.定期試験を行う（100点満点中50点分）。 3.定期試験と以下の小テストの総合点（100点満点中50点分）で評価する。 2課分の小テスト5点×3回=15点アクティビティでのパフォーマンス5点×7回=35点 また評価がSとAの人数の割合は、合格者（つまり評価C以上）全体の30%程度とする。
課題・試験に対 するフィードバック の方法	授業中の小テストは点数をつけてその場で返却し、レポート等はコメント等添削を加えて返却。
使用テキスト	ニコラ・ガイヤール他著、『カフェ・フランセ』、朝日出版社、2400円+税
参考文献・URL	適宜プリント配布
各自準備物	教科書、筆記用具、辞書
実習費	
その他	1.小テストの内容は授業中に指示する(単語テスト、作文、発音テスト等) 2.遅刻や欠席がないようにすること 3.授業中の私語、飲食、携帯の使用は禁止 4.テキスト、辞書、筆記用具を持参すること 5.「フランス語Ⅰ」の単位修得が前提

科目名称	フランス語Ⅱ②③	授業コード	20306072
担当教員	小宮 美奈		
単位数	2.0 / 1.0	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2020
関連資格		科目分類	外国語 / コミュニケーション
		開講学期	後期
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照		
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>授業の目的:フランス語は俗ラテン語から派生したロマンス諸語(他にイタリア語、スペイン語、ポルトガル語などがある)の一つで、世界中で日本の人口の2倍近くの人々の公用語として話されている。フランス語の学習を通して、世界を異なる視点より眺め、異文化への適応力を高め、地球市民としての教養を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>①フランス語の音声・文字に親しみ、正しい文法を習得する。</p> <p>②実践練習に積極的に取り組み、フランス語を話す楽しさを知る。</p> <p>③言葉を通してフランスおよびフランス語圏の文化や価値観を知る。</p> <p>(実用フランス語技能検定4、3級程度)</p>		
授業の概要(内容)	<p>ストーリーを追いながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」という基本的なコミュニケーション能力が身につくよう指導する。授業では、教科書または、配布プリントの筆記問題の答え合わせにより、わかりやすく文法を説明する(事前学習型授業)と同時に、発音訓練や聞き取り練習にも取り組み、テキスト内の対話を楽しく発表する(ロールプレイ)形式をとる。</p>		
授業計画	<p>1:第6課:ドミニク・ギャロパンの家で(命令形、教室内でのフランス語)</p> <p>2:第6課:ドミニク・ギャロパンの家で(数量表現、部分冠詞)</p> <p>3:第6課:ドミニク・ギャロパンの家で(食料品、中性代名詞en)</p> <p>4:第7課:インタビュー(第1部-間接目的語人称代名詞、未来を表す現在形)、小テスト</p> <p>5:第7課:インタビュー(第1部-中性代名詞yとen、12ヶ月)</p> <p>6:第7課:インタビュー(第1部-趣味・余暇について話す)</p> <p>7:第8課:インタビュー(第2部-複合過去形、過去分詞、助動詞êtreを用いる自動詞)</p> <p>8:第8課:インタビュー(第2部-近接過去、国名、フランス語圏)、小テスト</p> <p>9:第8課:インタビュー(第2部-励まし、お祝い、慰めの表現)</p> <p>10:第9課:レストランで(命令形と目的語人称代名詞、天候について話す)</p> <p>11:第9課:レストランで(近接未来、身体/体調について話す)</p> <p>12:第9課:レストランで(代名動詞、誘いの表現とその答え方)、小テスト</p> <p>13:第10課:セラヴィ(代名動詞の命令形、現在形の用法のまとめ)</p> <p>14:第10課:セラヴィ(代名動詞の複合過去、依頼の表現とその答え方)</p> <p>15:総括(題6課から第10課)、まとめテスト</p>		
実務経験のある教員			
授業時間外学習	<p>テキストまたは配布プリントの予習(音声は3回以上聴き、発音してみる。筆記問題をノートに解く)</p> <p>テキストまたは配布プリントの復習(ディアローグは何度も言う練習をする。文法事項の確認、筆記問題の確認、POUR COMMUNIQUER と動詞の活用などの基礎文法事項は暗記することが望ましい。)</p> <p>詳細は適宜授業内で指示する。</p>		
評価方法	<p>対話の読み合わせや聞き取り練習の参加度10%、授業内小テスト30%、授業内まとめテスト60%の割合で評価。小テストについては授業内で指示する。</p>		
課題・試験に対するフィードバックの方法			
使用テキスト	『ヌーヴォー・セラヴィ』倉方秀憲、Serge GIUNTA、Thierry TROUDE 著 早美出版社(CD付き)		
参考テキスト・URL	<p>文法書については授業内で適宜指示する。</p> <p>教科書の音声ダウンロードについては、授業内で指示する。</p>		
各自準備物	<p>ノート、仏和辞典</p> <p>詳細については授業内で適宜指示する。</p>		
実習費			
その他	<p>「フランス語Ⅰ」の単位修得が前提。</p> <p>必ず出席すること。</p> <p>欠席5回以上はE評価となる。</p> <p>Bonne continuation!</p>		

科目名称	ドイツ語 I ①～③			授業コード	10106281
担当教員	杉林 周陽				
単位数	2.0 / 1.0	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2020	開講学期	前期 / 後期
関連資格					
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標(学修成果)	ドイツ語の文字と発音、及び文法の基本を理解する。日常会話で用いる挨拶などの表現を身につける。簡単なドイツ語文を作成できるようになる。自己紹介をドイツ語でできるようになる。				
授業の概要(内容)	ドイツ語を始めて学ぶ学生を対象とする。ドイツ語におけるアルファベットの発音と読み方を学び、文章を読んでいながら動詞の人称変化や冠詞の格変化といった基礎的な文法内容を確認していく。この過程においてドイツ語の語感を養い、同時に挨拶などの簡単な表現を身につけてもらうことも目標とする。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。				
授業計画	1: アルファベットと発音 2: 人称代名詞と不定詞・定動詞の現在人称変化 3: 定動詞の位置・語順 4: seinの現在人称変化 5: 名詞の性 6: 名詞の格 7: 冠詞の変化 8: habenの現在人称変化 9: 名詞の複数形、男性弱変化名詞と例外的な名詞 10: 人称代名詞の3格・4格 11: 不規則動詞の現在人称変化 12: 命令形 13: 不定冠詞類(所有冠詞・否定冠詞) 14: 定冠詞類 15: まとめと授業内テスト				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	次の授業で読むことになるドイツ語の文章について、予習として付属のCDを聴き、少なくとも一読はしておくこと。その際、必ず繰り返し「音読」に努めること。 また復習として、授業で読んだ文章の発音、及び単語・文章の意味、文法項目について復習しておくこと。加えて、返却された課題、または小テストについても、必ず間違えていたところを確認すること。				
評価方法	最終試験50%、授業への取り組み(発表・課題等)及び毎回授業に実施する提出課題50%を基準に評価する。ただし出席が10回に満たない場合にはE評価とする。また毎回の提出課題も成績評価に加えるため、欠席をすればするほど、単位の認定が難しくなることは承知してもらいたい。 なお、30分を超える遅刻については当該授業における課題の提出を認めないものとする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、その次の授業の開始時に返却する。その際、疑問・質問が書かれている場合に関しては、それに対する回答も加える。				
使用テキスト	中村修ほか『つながるドイツ語みっとりべ』(朝日出版社)				
参考テキスト・URL	独話辞書				
各自準備物					
実習費					
その他	語学力は学習時間に比例して伸びていくものである。そのため積極的な授業参加を望む。 語学学習に苦勞はつきものであるが、できるだけ楽しくドイツ語を学んでいく機会を提供したい。				

科目名称	ドイツ語Ⅱ		授業コード	20006291	
担当教員	杉林 周陽				
単位数	2.0 / 1.0	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2020	開講学期	後期
関連資格					
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標(学修成果)	助動詞などを用いる際の文の構造を知る。ドイツ語圏文化の特質を理解する。 日常会話上のより多様な初歩的表現を用い、身の回りの出来事を表現することができる。				
授業の概要(内容)	前置詞や助動詞といった文法を確認する。この過程においてドイツ語の語感をさらに磨き、より多くの日常生活に必要な表現を身につけてもらうことも目標とする。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。				
授業計画	1:ドイツ語Ⅰの復習 2:前置詞の格支配(2格・3格・4格支配) 3:前置詞の格支配(3・4格支配) 4:前置詞と定冠詞の融合形 5:分離動詞 6:非分離動詞 7:完了形 8:話法の助動詞 9:従属接続詞 10:zu不定詞句 11:再帰代名詞と再帰動詞 12:動詞の三基本形 13:過去形 14:現在完了形 15:まとめと授業内テスト				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	次の授業で読むことになるドイツ語の文章について、予習として付属のCDを聴き、少なくとも一読はしておくこと。その際、必ず繰り返し「音読」に努めること。 また復習として、授業で読んだ文章の発音、及び単語・文章の意味、特に文法項目についてはしっかりと復習しておくこと。加えて、返却された課題、または小テストについても、必ず間違えていたところを確認すること。				
評価方法	最終試験50%、授業への取り組み(発表・課題等)及び毎回授業に実施する提出課題50%を基準に評価する。 ただし出席が10回に満たない場合にはE評価とする。また毎回の提出課題も成績評価に加えるため、欠席をすればするほど、単位の認定が難しくなることは承知しておいてもらいたい。 なお、30分を超える遅刻については当該授業における課題の提出を認めないものとする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、その次の授業の開始時に返却する。その際、疑問・質問が書かれている場合に関しては、それに対する回答も加える。				
使用テキスト	中村修ほか『つながるドイツ語みっとりーべ』(朝日出版社)				
参考テキスト・URL	独話辞書				
各自準備物					
実習費					
その他	語学力は学習時間に比例して伸びていくものである。そのため積極的な授業参加を望む。 語学学習に苦労はつきものであるが、できるだけ楽しくドイツ語を学んでいく機会を提供したいと考えている。 「ドイツ語Ⅰ」の単位修得が前提。				